



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
- アジア会長主題 「変化をもたらそう」
- 東日本区理事主題 「変化を楽しもう！」
- あずさ部部長主題 「変わるに挑戦！」
- 東京西クラブ会長主題 「変化を恐れず、少しずつ」

2021年5月号

NO 536

あなた方は地上に富を積んではならない。そこでは虫が食ったり、さびついたりするし、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。
マタイによる福音書6章20-21節

コロナとWHO

吉田 明弘

「コロナ」と「WHO」という題を見て、人は「WHO」に何を思うでしょう。大部分の人は、「世界保健機関」を思うでしょう。ところが、東京西クラブのメンバーは違います。「WHO」といえば、「ウォーキング・ホリデー・オギクボを思い浮かべます。少なくとも1年半前までは。

歩く方の「WHO」は、今年の2月に活動を中止しています。10月と11月には「WHO 感染予防原則」を発表し、参加者が守るべきこと、主催者が留意すべきことを決め、慎重に実施しました。当日は、携帯スピーカーを用い、分散歩行、非対面の昼食などを呼びかけました。しかし以後中止しています。

元々、ウォーキングがもたらす「公害」には注意を払ってきました。参加者が60人を超えるようになってからは積極的な参加呼びかけはやめていました。大声は広場でのウォーミングアップの

時以外は中止です。町中を歩く時は、「長い列」にならないように気を配りました。バスの運行が1時間に2本ほどのコースは、住民の足を奪いかねないので、除外していました。ウイルス感染の場合は命にかかわりますから、より一層の注意が必要でしょう。

ワクチンが効果を発揮して、やがてコロナ感染が終息に向かったアフターコロナではウォーキングは、どうなるのでしょうか。開放感から野に山に人が繰り出すかもしれません。一方、1980年代の初めに、ウォークマンやイヤホンによって音楽の世界に変化があったように、ウォーキングにも個人化が進むかもしれません。

全国紙の地域版にウォーキングコースの紹介がこれまでになく盛んです。実は、歩く方のWHOでも、一昨年くらいから、積極的な男性の参加が増えていましたから、いろいろ変化が楽しめると思いつつ、時を待ちます。



“サツキの花”は中止 あずさ部評議会はZoom開催

5月8日に東京YMCA山手センターで開催予定だったあずさ部第3回評議会は、「緊急事態宣言」を受けて、Zoom開催となりました。部長主宰の評議会は、報告、議事は部長事務局が準備し、懇親などはホストクラブが担当し、部会名をネーミングするなど知恵を絞って盛り上げるのが伝統です。今回は、東京西クラブが担当で、「サツキの花評議会」と名付けていましたが、この部分は中止されます。

(写真は神谷雅子さんの撮影)

クラブ役員

- 会長 篠原 文恵
- 副会長 大野 貞次
- 書記 本川 悦子
- 会計 石井 元子
- 担当主事 横山 弥利

4月の記録		ニコニコ	円
在籍者数	12人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド(当月)	円
出席者数	10人	コメント	1人
出席者数	10人	クラブファンド(残高)	円
キーキャップ	1人	ビジター	18人
出席率	100%	ホテ校ファンド(当月)	円
出席率	100%	ホテ校ファンド(残高)	円
前月修正	-	WHO参加者	1人

5月Zoom例会のご案内

今月の強調テーマ EF (エンダウメントファンド)
JEF (東日本区ワイズ基金)

受付：高嶋美知子
PC操作 横山 弥利

新型コロナが発見されてから、世界の医療現場や国民への休業補償など、各国の福祉対策との比較が日々報じられています。

今月は、現在もイギリスとの交流を深めておられる日本大学社会福祉学科准教授・鴨澤小織先生に、高齢者対策、社会的弱者への対応など、日本の福祉現場の現状、問題点などについてイギリスの実態も含め語って頂きます。また緊急事態宣言が続き、経済的にもますます追い詰められている若者や女性の問題にも触れていただければと思います。Zoom 併用なのでお気軽にご参加ください。

日時：5月20日(木) 18:45~20:30

会場①：各ご自宅

②：山手センター3階 会議室

参加申し込み：czt05343@nifty.com(吉田)

当日 Zoom に参加される方は、定刻 30 分前を過ぎたら、以下をクリックしますと、Zoom 会議室に入れます。

<https://zoom.us/j/92173931303?pwd=aVk5U1ppc1AwY0hHSmZmU1RDMndGdz09>

アプリ画面からもミーティングID: 921 7393 1303 で入れます。パスワード: 935546

司会 鳥越 成代
篠原 会長
一 同
聖書朗読・感謝 吉田 明弘
挨拶・紹介

卓話 「高齢者のアクティブエイジング、女性のライフサイクルから見る課題」
日本大学文理学部社会福祉学科准教授
鴨澤 小織先生

ハッピーバースデー

諸報告 会長 他
YMCA 報告 主事・横山弥利

自由対話

閉会点鐘 篠原 会長

Happy Birthday

20日 横山 弥利さん

卓話者紹介

鴨澤 小織(かもざわ・さおり)さん



杉並区生まれ、一般企業を経て、イギリスバーミンガム大学大学院に留学、現在は日本大学文理学部社会福祉学科の教員です。社会的弱者の語りから見える社会を女性という視点から研究しています。今回は、2つのお話をしたいと思っています。まず、イギリスの高齢者の生活や政策を通して、日本の女性高齢者の状況について、そして若年女性の抱える問題について皆さんとお話しできたらいいと思っています。小学校時代はYMCAのキャンプによく行きました。お会いできるのを楽しみにしております。

- 4月事務会報告 -

日時：4月22日(水)

17:00-18:30

会場：ウエルファーム杉並 4F

出席者：石井、大野、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田

<報告事項>

①4月例会出席者の確認をおこなった。

②4月会計報告を行った。

③5月8日に、当クラブのホストで行う第3回あずさ部評議会は、部事務局の運営で、Zoomで行うことになった。

④6月12日-13日、笛吹市湯村で開催予定だった区大会は、12日(土)にはハイブリッド形式で行うことになった。区から参加要請があった。

⑤東日本区会員名簿(ロースター)は、次年度は発行を中止し、

電子版として、印刷も可能にすることになった。

<協議事項>

①5月例会の鴨澤小織さんの卓話内容について話し合った。

②6月例会は、例年通り、クラブ総会を開く。

③例年6月に行っていた、国際ホテル学校留学生支援は、秋になってから行う。(書記・本川悦子)

Zoomのあずさ部評議会

5月8日18:30~20:00に行われるZoom評議会は、いわば予算評議会。主に次年度活動方針・計画について語り合います。

<https://zoom.us/j/97696272404?pwd=enU2VnNXYNJJSTFTSmJoeWZzNWZUdz09>

ミーティングID: 976 9627 2404
パスワード: 722756

－ 4 月例会報告－

2021年4月15日(木) 18:45～21:00、東京西クラブは多くの他クラブの皆様のご協力を頂き、初めてのハイブリッド例会を行いました。

会場は東京 YMCA 山手センター3階会議室、または各自、参加できる場所。私も参加しておりました山手センターでは、各自がPCも準備できていましたが、会議室に用意されたスクリーンに、会場以外の場所から参加する方々の顔が映し出され、北は北海道、南は熊本、またタイのチェンマイから参加された方もおいで、何の違和感もなく直ぐ傍でお話を伺っているようで、今後の会議の在り方について、考えさせられました。クラブのメンバーだけでは難しい機械の操作等、東京多摩みなみクラブの田中博之さんと、武蔵野多摩クラブの渡辺大輔さんのご協力のおかげで、無事に例会を行うことができました。お陰様で今後の会議の在り方に新しい道が開けたのではと思います。

5月の卓話は、恵泉女子学園大学人間社会学部教授で、東京多摩みなみワイズメンクラブの藤田智先生に、「コロナ禍における野菜作りのおすすめプランター

栽培のおすすめ」というテーマで、お話を伺いました。野菜栽培とその教育がご専門ですが、NHK テレビ番組でも大変ご活躍をいらっしゃいます。

現在、長引くコロナ禍の中で、ステイホーム、人を避けて生活することが多くなり、野菜作りに興味もたれブームになっているとのこと、また団塊の世代が定年となり、農に帰ってきたこと。人間の原点を経験すること、自分で食料を作ること、野菜作りは病気や害虫との戦いであり、人と人とのコミュニケーションの場であること。以後、実際の栽培の紹介、未経験者にもできるかな？と思わせられる栽培方法等、スクリーンへの実写とお話で、だれもがやってみようかなと思わせられる楽しいお話が続きました。

トマトの栽培などで、新品種を作り、大当たりする人は大変な財産を気付かれたとか。でもその品種は確かに美味しいのです。キュウリに栄養はないが、顔に貼れば肌が美しくなるとのこと、10年ぐらいかかるとすごく美しくなるそうです。

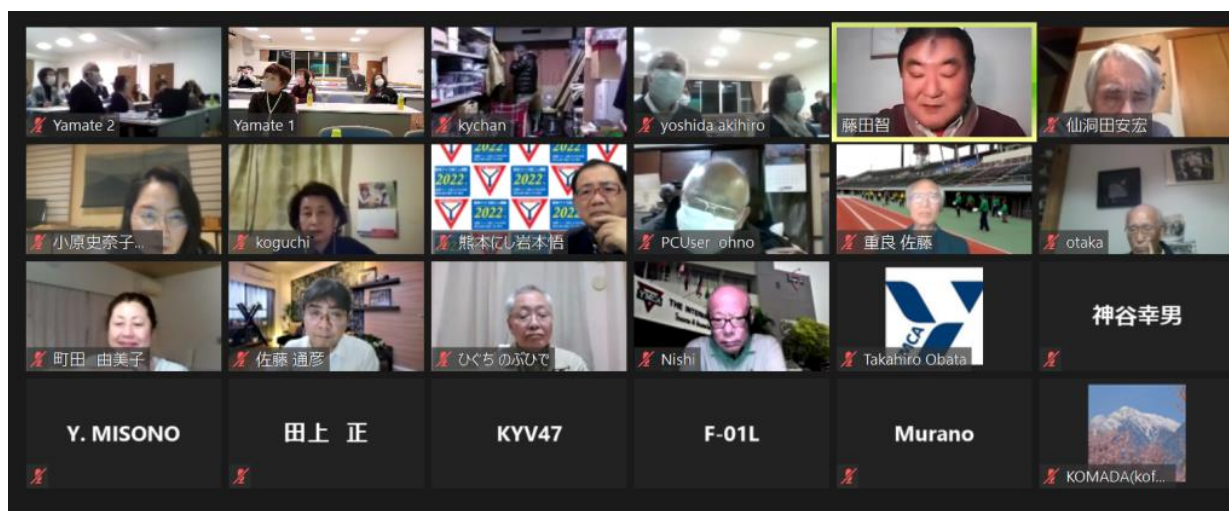
最後に家庭菜園の講座の参加者を募集、直接栽培経過を見てアドバイスして下さるようです。未経験の私も、ベランダで栽培し

たくなりました。

講演後の質問タイムの後、色々な場所からの参加者の映像の前に部員が並んで、記念撮影をしました。

地球上、どこにいても一つの会議に多数の人が参加し、意見を述べるができる。どこからでも直接顔を見ながら意見が述べられる。たくさんの方から色々な意見が聞けるということは大切なことだと思います。いい経験になりました。この方式でしたら、各会議の参加者も増えるのではないのでしょうか？ (鳥越成代)

出席者：＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、篠原、鳥越、本川、村野、横山、吉田、＜メイキャップ＞高嶋(4月事務会)、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞山下真(十勝)、樋口順英(東京グリーン)、田中博之・藤田智(東京多摩みなみ・卓話者)、仙洞田安宏(甲府)、渡辺大輔(東京武蔵野多摩)、御園生好子(東京サンライズ・あずさ部長)、駒田勝彦・佐藤重良(甲府21・次期区理事)、小畑貴裕・小原史奈子(東京たばぼ)、大高治(横浜)、田上正(熊本むさし)、岩本悟・佐藤道彦・町田由紀子(熊本にし)、西村隆夫(タイ・チェンマイ)、＜ゲスト＞加藤斐子、関喜一郎(元石巻広域)



4月例会は、31人が各会場から参加しました。画面上段右から2番目が講師の藤田智さん(東京多摩みなみ)

YMCA Today

■ホテル学校では就職活動が始まっています。今年はコロナ禍のため求人数にも影響が出るなど厳しい就職活動となっています。それでも様々なホテルの採用担当者にご協力をいただき、学内またはオンラインによって YMCA の学生に企業説明会が行われています。就職指導・担任教務を中心に個別相談や履歴書添削、面接練習に取り組んだり、また、卒業生たちが残してくれた「就職活動報告書」を参考にしたりと準備を進め、就職試験に臨んでいます。徐々に内定が出始めました。引き続きしっかりサポートしていきます。

■東京 YMCA の会員を対象に、年に一度の会員大会を開催します。日ごろ東京 YMCA をお支えくださる会員みなさまに、1年の活動を報告するとともに、会員の表彰、交流会などを行ないます。今年はオンライン (Zoom) によって開催いたします。

【日時】2021年5月22日 (土)
13:00~15:30 【会費】無料

■「東京 YMCA 会員芸術祭」は、会員の交流を目的に始められた展示会で、今年で24回目になります。例年、会員や関係者、学生、留学生、職員などが、趣味や特技の作品を出展します。昨年度はオンラインでしたが、今年は会場で開催の予定です。会期は6月28日~7月3日。ただ今、出展者募集中です。応募締切は5月28日まで。

■「のどトレ: のどの筋力を鍛えて健康作り」のご案内。のどの筋力を鍛える「のどトレ」は、声を楽しみ出せるようになるのはもちろん、誤嚥 (ごえん) の予防や体力作りにもなります。また、みんなで思いっきり声を出すことでストレス発散にも! 気持ちよく声を出して、心も体も元気になりましょう!

【日時】第2火曜

14:00~15:00

【会場】西東京センター

【対象】一般【参加費】800円

(担当主事・横山弥利)

「カトー折り」をもう一度 YMCA 会員大会 5月22日

東京 YMCA 会員大会のお知らせは『YMCA Today』の通りです。

今年は、東日本大震災から10年、熊本地震から5年にあたります。減災、防災を考えます。

その中で、「カトー折り」の実演と言うユニークなプログラムがあります。これは加藤祐一さん (元東京目黒) が考案した「折り紙」で、非常時や避難生活において、新聞紙を折ることによって、強度があり、水などを運べる容器が作れるのです。加藤さん自ら指導されます。クラブで講習会を行ったこともあります。忘れた頃です。復習されてはいかがですか。大会申込みは、東京 YMCA 会員部 kaiin@tokyoymca.org、03-6278-9071 まで。

ワイズ100年、 2022年はハワイ国際大会

ワイズメンズクラブ国際協会は、2022年8月11日から14日にアメリカ・ハワイで開催される国際大会で、創立100周年の祝賀を行なう予定です。国際ユースコンボケーション (IYC) も同年8月8日から14日に開催されます。

1966年にハワイ・ホノルルで開かれた北米大陸以外では初めての国際大会には、当時の日本区から、日航機をチャーターして、118人が参加しました。それまでは、1人か2人の参加でしたから世界に“日本のワイズ”を印象づけました。今回も100周年にふさわしい、楽しく感銘深い大会が期待されています。

申し込み登録は、2022年1月1日から、IYCの登録は、2021

年10月末から開始されます。登録費は、大人600米ドル、宿泊費は、大会ホテル・アラモアナホテルの場合1室1泊220米ドルです。

このような時期のため、参加者予定者数を把握するアンケートが行われています。アンケートは板村理事からのドットコム連絡 (4月26日) をご覧ください。

ワイズあれこれ

西日本区・京都ウエストメンズクラブは、クラブ設立40周年の記念事業のひとつとして、クラブ創立以来支援している養護施設の卒園生のユースを成人式に送り出すことができました。彼女のために振り袖、小物、髪結い等を用意し、メンバーのご子息のプロのカメラマンが撮影を行いました。

私たちはこれまで、職業訓練支援、職業講演会、スポーツを通じて施設の子供たちの成長を支援してきたが、コロナ禍のロックダウンで、支援活動も制限されましたが、5月と12月にはマスクや食料等を提供しました。

(国際会長ニュース5月号から一部抜粋)

南東アジア区では、エクステンションチームが設立され、ミャンマーでのエクステンション活動に尽力しました。

残念ながらミャンマーでの軍事クーデターにより、ワイズダムは、中断せざるを得ませんでした。ミャンマーの不透明な政治状況と不安な雰囲気 considering、区とエクステンションチームは、計画を中断しましたが、私たちの思いやりを示し、常に彼らのために懸命に祈り続けています。どうぞミャンマーのワイズメンの上に神様の祝福がありますように。(アジア太平洋地域ブリテン4月号から一部抜粋)

(篠原文恵)

☆☆インタビュー☆☆83☆☆
 漆畑義彦さんに聴く
 富士クラブ



—漆畑さんは、駿河生まれの駿河育ちですか。

「生まれは愛知県豊橋市です。父の転勤で物心がついたのは静岡市でした。母が身重の時に静岡大火に遭い、父が身重の母を背負い、姉が私と妹の手を引き家を飛び出しました。幼心に背中の中の火におびえて泣き叫んだことを覚えています。母はこれを境に寝たきりになりました。父は退職し自宅で仕事をし、12年間介護しましたが母は42歳で力尽きました」

—そうだったんですか。

「人生どん底、荒れにであれた少年時代でした。心配した父は趣味の剣舞を習わせてくれました。父の背中がとてつもなく大きく見えました」

—立ち直るきっかけは。

「親友が私を山に連れ出してくれました。南アルプスによく出かけ、苦勞して登った頂上の達成感は何物にも代えがたく、夢中になりました。また父の剣舞の高弟で馬術の名手から、「馬の世話をしないか」と6頭預けられました。朝5時に馬小屋の掃除、寝糞を取り換え、責めを行って塩水を飲ませ飼料を与えて、馬喰の親方に引き渡しという重労働でした。聞きもせず、話されもしませんでした。父がこの仕事を頼んだように感じていました」

—今のお仕事は

「馬の先生が県庁に出入りする電気工事会社を経営していて、忙しいからというので旧静岡県庁の

配線改修工事を手伝いました。電機の仕事は、学生時代にトランジスタラジオづくりに夢中になって、当時6石ラジオ作るために1~2石ラジオを作り友達に売って資金を稼いでいました」

—それで起業ですか。

「県庁では変電所の改修工事、各部・各課の照明器具交換など全館全室を回りました。とある部屋で後に妻となる女性と出会いました。やがて結婚華やかな青春時代でした」

—それはそれは。

「息子が生まれてすぐ名古屋に行きました。電気工事業を始めたので、将来を考え、より高度な技術を自動車メーカーに求めました。自動制御、計装工事、システム設計、PCプログラムなどゼロから学ぶためですが、家庭と仕事を持っての勉強はなかなか進みませんでした。でもそれが、現在の会社に生きています。その後、大手企業との取引ができるようになり現在があります」

—クラブ入会は、何年ですか。

「1988年、クラブ設立の時です。クラブ認証状は、京都国際大会会場で授与されました」

—ワイズやYMCAを知っていましたか。

「ボーイスカウトの指導者講習会の講師で熱海地区によく派遣されていたので熱海や沼津にワイズメンズクラブが活動していることも知っていました。奉仕活動に共感しました」

—ボーイスカウトにも関係されたのですかね。

「長男のためにと励んだのが自分の方が夢中になってしまっ。気が付けばALT(アシスタント・リーダー・トレーナー)までやりました。今でもALT同期会は年1回酒を酌み交わしています」

—1988年、富士クラブのホストで、区大会を駿河湾の新さくら丸船上で行った時、開会式の幕開けで詩吟をやられたのは、漆畑さん

ですよね。

「剣舞は父親の影響で物心ついでから生活の一部でした。開会式の開幕は詩吟に合わせて書を書き上げる書道吟で、大会スローガン”ワイズたて”を地元の書家大村華谷先生が墨痕麗しく書き上げて天井に吊り上げてバックスクリーンにする計画でした。ところがリハーサルで墨が垂れてしまって失敗、本番は事前書き上げて乾燥させたものを詩吟に合わせて吊り上げてました」

—剣舞は、その後も。

「父は日本剣詩舞連盟の参与で静岡県の理事長でした。小さい時は静岡浅間大社の石畳で父の詩吟に合わせて練習させられました。当時は真剣を使ったので警官に咎められて怖かった思い出があります。日本吟剣詩舞連盟の大会があつて中部9県の大会では1位になることもありましたが、全国となると3位以内には入れませんでした。現在所有している日本刀の中の伊豆の国住、定義に注文した『剣士漆畑星桜の需に応ず』と刻まれた2振りには自慢の業物です」

—富士山部部长、EMC事業主任、区監事などを、2003-04年度櫻村好夫区理事、2011-12年度河合理重三理事の事務局を務められました。一番の思い出は何でしょう。

「櫻村理事の時に急速にワイズについて勉強させてもらいました。河合理事の時は、事件に巻き込まれて人の非情と解決に努力する人の心の広さを知りました」

—ワイズの良さは、どこにあると思われませんか。

「人のつながりを大切にすることだと思います」

—最後に、座右の銘というか、勝負どころで浮かぶ言葉は。

「『まず自分に奉仕』。自分や家族に奉仕出来ないものは、他人に奉仕などできないと思っています。」

—有難うございました。

(吉田明弘)

私の大切な人

村野 絢子

名古屋中央教会東京会

名古屋中央教会では、聖歌隊に所属し合唱の楽しさに夢中になった。教会学校で、男子中学生（全員名古屋学院）を担当していた時、伊勢湾台風が直撃し、生徒の一人が水没した地域に住んでいて、彼の家族は無事だった。彼と妹だけが電信柱につかまって助かり、町内の子どもはほとんど亡くなり、靴塚が出来た。妹さんが靴塚に手を合わせ祈っている写真が新聞に載り、家族はいたたまれなくなり、引越した。忘れられない思い出である。

結婚し東京に住んでも家族で、年に1度、中央教会の東京会に参加した。名古屋から東京の大学に学び、多方面で活躍する信仰の先輩たちである。

大学教授の大塚信・望兄弟、商社の加藤庄六さん、ダークダックスの佐々木（まんが）さん、以前中央教会で牧された先生方、軍事評論家の岩島さんもいらした。

ワイズ関係では、松田俊彦さん（東京）、鈴木功男

さん（元東京など）、富士桜閣の夫人となった中澤嗣子さん（『相撲部屋のおかみさん』を出版）、青学の三輪修二さんには入られたホームのコーラスの伴奏に娘・和泉が頼まれ、今も20年近く通っている。林園子さんには、姪の乾千恵さんの「月・人・石」の書を紹介していただいた。妙高のロッジでは、吉田ロッパさんが訪ねて下さった。こうして今はみ許に召された多くの信仰の友は私の中で生き続けている。



名古屋中央教会東京会 1999年明日館での集会

「元号」表記の煩わしさ

神谷 幸男

今年は「令和3年」ですね。現代社会の多くの場では「今年が2021年」と西暦で表していますが、いまだに「令和3年」と表している古いというべきか日本の「伝統」だとか「文化」だとか言っている社会もあります。そう官公庁や銀行など。これらは現政権におもねっているところでしょうか。

ちょっとした調べ物をするとき、元号で表記されていると、それが何年前のことだったのか、1974年のあの時のことと、どちらが先だったか直ちには判らないときが多いので、換算表？を見ないと判らない煩わしさを年中経験させられています。

そんなとき、「西暦表記を求める会」という市民団体があることを知りました。

曰く「私たちは、さまざまなつながりで知り合った市民が、2019年4月に結成した運動体です。もう何十年も昔から議論されてき

た、世界で唯一、公文書を「元号」のみで表記する社会がいかにも不合理で、異様なことであるか、実態を把握し、その改善を求めています。」とありました。

「昭和」という元号が、近くなるであろうという頃に「参院文部委で「元号廃止、西暦へ」を研究し始めたことがあったようですが、西暦表記に反対したり、ためらう人々がいたようです。その理由は、

- 世界にはいろんな暦がある、国の個性であるからいいではないか。
- 西暦はキリスト教のものだから特定の宗教の紀元など使うべきでない。
- 世の中、合理性だけで割り切れない。日本の伝統・文化を守るべきだ。などです。

なるほど、単純に西暦表記にできない屁理屈があるものだと改めて思われました。でも小生も早期に西暦表記の社会に移行してもらいたいと願っている一人です。

編集後記

急に原稿が書けなくなって慌てました。今日こそ書くぞと、朝、パソコンに向かいますが、夕方まで何も書けません。そんな日が数日続きます。50年以上ブリテンに何らかの形でかかわってききましたが、初めての不思議な経験です。集中力がなくなったことも大きいでしょう。加齢による影響は受け入れざるを得ません。でも一番感じるのは、俗にいうネタ不足。テーマが見つからないのです。これでは、何時間パソコンの前に座っていても原稿は現れません。

考えてみると1年以上、区大会、部大会、クラブ間交流、そしてクラブの例会を始めとするプログラムが中止や縮小を余儀なくされてきました。人との交流がなくなり、気づかない間にお互いに蓄積していた「話題の泉」が枯渇しているのです。まだまだこの状態が続くでしょう。こちらから動いて、新しい情報源を開拓する、想像力、創造力を磨くチャンスとしたいと思います。（AY）